

## 第2学年 美術科学習指導案

日時 平成29年9月22日(金) 13:30~14:20

学級 2年B組(男子18人 女子10人 計28人)

指導者 教諭 柳田利子

### 1 題材名 篆刻「自分の印」

### 2 題材について

#### (1) 教材観

本題材は学習指導要領の第2学年及び第3学年の目標(2)「対象を深く見つめ感じ取る力や想像力を一層高め、独創的・総合的な見方や考え方を培い、豊かに発想し構想する能力や自分の表現方法を創意工夫し、創造的に表現する能力を伸ばす。」を主なねらいとしている。篆刻は本来、A表現(2)「伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動」にあたる内容だが、本題材では、柱の持ち手部分(「鈕」)を工芸としての使用機能を持たせつつ、制限された中で自由な発想で彫刻として制作させて生きたい。

中学生の時期には、発達段階に合わせ、美しさやよさに気づき感じ取れるような活動が大切である。自分自身に関して、良さや価値をより深く理解することで徐々に個性などが確立し、身近にある物に自分の好みを反映させたりなどの活動を行うことができるようになる。

自分の名前をモチーフとして表す篆刻では、自分をどのように表すかを考えながら表現につなげていく必要がある。また、自然の石を彫るという加工の面白さを味わうこともできる。鈕は多方面から鑑賞できたり前から横、後ろへのつながりを意識したりと立体の存在の強さや、手触りの楽しさなど多くの感覚に訴える部分のある教材である。イメージを生かしながら立体的な形をどのように構想していくのか難しい單元でもある。

#### (2) 生徒観

観察したことを生かし描画する單元では技能に大きな達成度の差が見られた。技能の差は大きいだが心をこめた絵手紙や、美しい自然物を題材にしたデザインなどの制作の様子を見ると表現したいという気持ちをみんなが持っているクラスである。

雰囲気としては明るく意欲的であるが、思いを表現することに自信がない生徒もおり、そのために周りの雰囲気に左右されることもある。「自分」をどのようにイメージし表現に結びつけていくかを考えさせ自信を持って制作に取り組ませたい。

#### (3) 指導観

生徒達は1学期に粘土による手の塑像を制作しており、立体で表す面白さ難しさをすでに感じている。細やかに観察をしたり、大まかな形を捉えたりして作品として表現することを苦手とする生徒もいるが、石による彫刻は、素材の持つ存在感を生かし魅力的な作品になりやすいと感じている。加工の面白さ、素材の魅力を意欲に結びつけて積極的に制作させたい。

塑像と違って彫像では制作への見通しをより実感を持って計画的に進める必要がある。制作の上では初めて体験することが多く、イメージした形を正面からだけでなくいろいろな角度から見た場合まで想像し、それをスケッチなどで描き表す難しさがある。段階を踏まえながら制作を進めるために、可塑性のある粘土等を補助的に使い、イメージをふくらませたい。また、加工方法や手順を丁寧に示し、どの生徒にも完成への見通しを持たせて取り組ませたい。

### 3 題材の目標及び評価規準

#### (1) 題材の目標

篆刻としての機能や目的に関心を持ち、自分を表すという主題に迫るための工夫をし、材料や用具の特性を生かして見通しを持ち創造的に美しく表現をするとともに、他者の作品から作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り味わう。

#### (2) 題材の評価規準

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
①篆刻の特徴や美しさに関心を持ち、主体的に主題を生み出し構想を練ろうとしている。 ②材料や用具の特性を主体的に生かし、表現方法を工夫しようとしている。 ③篆刻としての機能や目的とともに造形的な美しさや、作り手の心情や意図に関心を持ち、主体的に感じ取ろうとしている。	① 自分のイメージを大切に、自分なりの表現をするための工夫をしながらデザインを決定できる。	①篆刻用の石や印刀などの用具の特性を生かし、制作の順序や作品のイメージをもって創造的に表現している。	①形やデザインの面白さを感じ取り、作者の心情や意図と結びつけ、自分の価値意識をもって味わっている。

### 4 学習指導の計画（13時間扱い）

時間	学習目標	言語活動に関する留意点	評価規準
1	篆刻の大まかな制作の流れが分かり自分を表すデザインのアイディアを出そう。	アイディアの出し方の交流をする。	自分を表すアイディアスケッチをたくさん描いてみる（関）（発）プリント、アイディアプリント
2	バランスを考え印面デザインを完成させよう。	デザインの良さの発表をする。	印面デザインのアイディアを出す（関）（発）プリント、デザイン用紙
3	印面のデザインを調整工夫し、よりよいデザインにしよう。	スムーズな交流のため、交流の仕方の説明、指示をする。 交流して変容があれば良い。	自分のアイディアを1つに絞り込む（発）（技）（鑑）観察、交流プリント、デザイン用紙、鑑賞プリント
4	印面の彫り進め方を理解し、美しく彫ろう。	制作方法と手順を理解する。	デザインに沿って彫り進める（関）（技）観察、プリント、作

			品
5	印面のデザインを振り返り、「鈕」のデザインのアイデアを考えよう。	アイデアの出し方の交流をする。	彫刻デザインのアイデアを出す (関) (発) 観察、プリント、アイデアプリント
6	「鈕」のデザインを紙粘土で表現してみよう	思いを立体に表し、言語活動につなげる。立面図、正面図、側面図の言葉の意味を捉えさせる。	紙粘土で立体化する・立面図を描く (関) (発) (技) プリント、デザインプリント
7	お互いの「鈕」のデザインを交流し合い、構想を深めよう。	交流により自分の作品を振り返りさまざまな視点や考えを知る。	交流した意見を基にしてデザインの構想を深める (関) (発) (鑑) プリント、交流プリント
8	「鈕」のデザインの立面図のように荒彫りを進めよう。道具の種類と特徴を知ろう。	正面図、側面図どちらから彫るかをお互いに考えさせる。	荒彫りをする (関) (技) 観察、作品、プリント
9	荒彫りを終わろう。紙ヤスリの性質を知ろう。	紙ヤスリの性質について知る。	荒彫りを終わる (関) (技) 観察、作品、プリント
10	残す傷を見極めよう。	思ったように加工できなかったときのリカバーの仕方を交流する。	細部を掘り進める (関) (発) (技) 観察、作品、プリント
11	仕上げの磨き方を意識しよう。	仕上げ方の選択と、狙った効果を発表する。	細部の彫り・磨き始める (関) (発) (技) 観察、作品、プリント、アイデアプリント
12	完成を目指そう。	完成に向けての仕上げを確かめながら制作する。	完成を目指し磨く (関) (技) 観察、作品、プリント
13	思いを込めた名札を書き、鑑賞をしよう。	自分の作品を振り返り名札を書く。鑑賞プリントに自分の思いを書く。	名札、鑑賞プリントを書き発表する (関) (鑑) 観察、プリント、名札プリント、鑑賞プリント

## 5 本時の指導計画（7/1 3時間）

### （1）指導目標

「自分」を表す「鈕」のアイデアを紙粘土で作った模型を使って発表し合い、作品としての美しさや作者の心情や意図を感じ取り、交流しあった意見を基にさらに構想を深めることができる。

### （2）本校の研究について

遠野東中学校区の視点に関わって

研究主題

学びあい、考えを深める生徒の育成

～学びの場における言語活動のあり方を通して～

視点1 学習過程における言語活動の重点化（教師と生徒）

・お互いのデザインに興味を持たせポイントを示した上で相互鑑賞をさせることにより、より良い作品となるよう工夫させること。

視点2 学び合いの場における言語活動の工夫（生徒と生徒）

・グループ内で鑑賞し交流することによって、新たな気づきを生み作品の見方を深めること。

(4) 本時の展開

	学習内容	生徒の学習活動	評価基準・方法
導入 7分	<p>1 前時までの内容確認</p> <p>2 今日の授業の目標への見通しを持つ。</p>	<p>前時の内容を思い出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• どのようなアイデアで「自分」を表現したか。</li> <li>• 表現の工夫や効果的な表し方はどうか。</li> </ul> <p>今日の目標を理解する。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>視点1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 作者らしい思いや雰囲気を表しているか</li> <li>• 表現するモチーフ/どんな形でバランスで表現するか</li> <li>• 「鈕」として成り立つか</li> </ul> </div>
<p><b>【学習課題】</b> お互いの「鈕」のデザインを交流し合い、構想を深めよう</p>			
展開 35分	<p>3 目標への迫り方を確認する</p> <p>4 相互鑑賞によりアイデアをお互いに交流する。</p> <p>5 交流をもとにアイデアを練ったり再決定したりする。</p> <p>6 片付けの説明をする。</p>	<p>発表し合うグループ内での役割分担を確認する。</p> <p>発表してもらった人はメモする。</p> <p>アドバイスする人は交流プリントに書き込む。</p> <p>そのほか交流中の「なるほど」の部分もメモする。</p> <p>自分の作品の良さ、更に良くなる工夫について考える。</p> <p>説明どおり片付ける。</p>	<p>交流方法の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 発表し合うグループの発表</li> <li>• 発表の仕方</li> <li>• 役割と分担</li> <li>• 時間配分</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>視点2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 作者らしい思いや雰囲気を感じる部分を交流</li> <li>• 「鈕」として成り立つかを交流</li> </ul> </div> <p>• 交流しあうことでお互いの作品を鑑賞し合い、よさを認め合い、アドバイスを行う。(関心)(鑑賞)</p> <p>• 自分の作品の振り返りにもつなげる。(鑑賞)</p>
終結 8分	<p>7 本時の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 交流で新たな考えに触れることができた人</li> </ul> <p>8 まとめ</p> <p>9 評価</p>	<p>挙手による評価をする。</p> <p>変容、強化のあった人に発表させる。</p> <p>教師の評価を聞く</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 鑑賞交流が活かされた発表を積極的に発表する。(意欲)</li> <li>• 交流の成果が感じられる発表をする。(鑑賞)</li> </ul>